

地域×企業×施設



横浜発

食を通じた 地域づくり フォーラム

平成 31 年

3/13 水

13:15~16:30
(受付 12:45)

【会場】 新都市ホール
(そごう横浜店 9 階)
横浜駅徒歩 5 分

【定員】 500 名

【参加費】 無料

消費されない食 必要とされる食

わたしたちで
つなげよう！

今、横浜では「こども食堂」など、「食」を通じた取組が広がりをみせています。

その取組は、地域、企業、福祉施設などの新たなパートナーシップを生み出し、個の支援にとどまらず、地域づくりへの可能性が見えてきました。

「食」が必要な人に届くには、寄付、仕分け、保管、困っている人に届ける人など、様々な関わり方があります。あなたも「食を通じた地域づくり」の輪につながり、できることは何かを考えてみませんか？

実践報告

企業などからの寄付品が、様々な人の手や工夫を経て、地域で活かされる事例をご紹介します。

【報告予定団体】

(株)セブン-イレブン・ジャパン / JA 横浜
こども食堂 / 福祉施設 など

コメンテーター

後藤 真一郎 氏

- 全国社会福祉協議会 中央福祉学院 副部長
- 前厚生労働省 社会・援護局 地域福祉専門官

※原則、先着順とし、ご参加いただけない場合のみご連絡いたします。

※いただいた個人情報は本事業のみに利用いたします。なお、個人情報の取り扱いについては、横浜市社会福祉協議会が有する個人情報保護指針（プライバシーポリシー）に基づき、適切に管理を行います。

※悪天候等による中止の場合は、当日 9 時以降に横浜市社会福祉協議会のホームページをご確認ください。

<http://www.yokohamashakyo.jp>

参加申込書 この申込書を FAX または同じ 内容を E メールで お送りください。	ふりがな		②連絡先	
	①氏名		④居住又は活動区 (市外の場合は市)	
	③ご所属・ 団体名(あれば)			

申込・問合せ先：横浜市社会福祉協議会

TEL : 045-201-8616 FAX : 045-201-1620 E-mail : drive@yokohamashakyo.jp

主催：横浜市社会福祉協議会・18 区社会福祉協議会 共催：横浜市健康福祉局

後援：横浜市子ども青少年局・横浜市資源循環局・横浜市教育委員会

報告 1

食品から日用雑貨まで、多様な寄贈品が あたたかい気持ちに乗せて、必要な人へ届く

セブン-イレブン・ジャパンは、店舗の閉店・改装に伴う在庫商品を横浜市・18区社会福祉協議会（社協）を通じて地域に寄贈する仕組みを全国初で始めた。

寄贈品は、食品から日用雑貨までコンビニならではの多様なもの。戸塚区社協、中区社協はこれらを必要とする人に届けるため、福祉施設などに協力を呼びかけた。

すると、松みどり保育所では、多くの親子が毎日通ってくる場を活かして、寄付品の配分会を開くことに。寄付者の思いを貼り紙で伝え、家庭の状況をよく知る保育士たちが声をかけながら手渡した。



また、区社協が大量の寄贈品の保管や仕分けの場所に困っていたところ、特別養護老人ホーム本牧ホームが施設の一室を提供。配分会の日は、施設職員やボランティアの協力もあり、多くの地域の活動団体が賑わった。



(株)セブン-イレブン・ジャパン
松みどり保育所（戸塚区）
特別養護老人ホーム本牧ホーム（中区）
中区・戸塚区社会福祉協議会

報告 2

農家の愛情のつまった野菜が 子ども食堂のおいしいごはんに

直売所への出荷農家から JA 横浜に「規格外や直売所で売り切れなかった野菜を役立てたい」という声があがったことが始まり。



野菜への愛情が深くそのおいしさをよく知る農家だからこそできる取組。また、子ども食堂のためにと野菜を用意して下さる方もいた。

泉区社協は、農家の思い、野菜の受取方法、地域の活動状況などを把握し、継続した仕組みを考えた。

ある地域では、夏休み中に給食がなくお腹をすかしている子や一人で食事をしている子のために、にぎやかな居場所が必要と考えていた。そこで立ち上げたのが、コミュニティしんばし食堂。おいしく料理された野菜をいただきながら、子どもだけでなく多世代が交流できる場となっている。



横浜農業協同組合（JA 横浜）
コミュニティしんばし食堂（泉区）
泉区社会福祉協議会

報告 3

「食」を通じた地域の輪が広がる

食に困っている世帯があることを知った保土ヶ谷区社協は、現状を地域に発信。すると、さまざまな人や団体から寄付が集まり、フードドライブに取り組み始める地域も出てきた。食支援の機運が高まり、次々と地域で拳がる手と手をつなげ、区域で広がる仕組みづくりに取り組んできた。

NPO 法人リロードは、ひきこもりの若者の支援や学習支援などを行っている団体。そこに通ってくる若者たちの「出番」として、寄付品の仕分けや地域への配分をすることにした。



若者たちによって整理された寄付品は、地域の施設や団体に配分される。その仕組みが、新たな出会いやつながりを生む。

NPO 法人リロード（保土ヶ谷区）
保土ヶ谷区社会福祉協議会

コメンテーター

後藤 真一郎氏

（全国社会福祉協議会
中央福祉学院 副部長）



平成 4 年に全社協に入局。
地域福祉部、障害福祉部、児童福祉部、中央福祉学院、総務部、全国ボランティア・市民活動振興センター副部長、中央福祉学院教授、厚生労働省社会・援護局（地域福祉専門官）を経て、現在。

メッセージ.....

平成 29 年 5 月から約 2 年間、厚労省では「地域共生社会」「生活困窮者自立支援制度」などを担当させていただきました。就任中は「地域力強化検討会」を立ち上げ、とりまとめなどさせていただきましたが、その時には「上から」ではなく、現場で起きていることを吸い上げ、現場の課題解決に資する仕組みづくり提案をしたいとの思いで取り組んできたつもりです。

これまでの理念としての「共生」という考え方が、施策としても展開されようとしています。さらにこれからは運動としても各地で取り組まれることが求められます。多くの方々が「我が事」として関心をもって地域に関わっていく社会を、横浜から発信していきましょう。

報告 4

横浜市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

学校や関係機関、地域などと連携し、児童生徒の支援にあたる専門職。支援を必要とする子どもや家族は孤立しやすく、自ら地域につながるのには難しい。子ども食堂などの開設情報が届きにくいことも。そんなときに、スクールソーシャルワーカーがつなぎ役となる。

報告 5

横浜市資源循環局 3R 推進課

食品ロス削減を目指す中の取組として、食べられるのに生かされていない食品に注目。区民まつり等のイベントでフードドライブを実施し、地域での啓発に取り組む。